設備工事の「多能工」育成－人手不足対策、協力会社にも波及

鹿島は建物の設備工事について、複数の異なる作業をこなす技能を身に付けた「多能工」を育成する。グループ会社を活用して技能者を雇用し、設備工事に関する複数の作業を行えるようにする。多能工の育成により、省人化や生産性向上を実現。将来は協力会社にも多能工を波及させ、建設現場の生産改革につなげたい考え。

鹿島のグループ会社のクリマテックが４月、全額出資で「クリマ・ワークス」（同新宿区）を設立した。従業員は１２人で、うち１１人が配管工の技能者。２０１７年度中に配管工の技能者を計１５人確保する。

クリマテックは設備に関する設計や工事の請負が主力。新会社で空調や衛生設備の工事、防災関連の設備工事、電気工事を行う。当面は配管工技能者が衛生設備を手がけながら、空調のダクト工事もできるようにする。今後、電気工事の技能者も採用し、数年後をめどに、広範囲の設備を施工できる多能工を育成していく。

鹿島が設備工事の多能工化に取り組む背景には、技能者が高齢化し、大量離職に伴う人手不足が予想されるため。建設業界全体で、１０年後に約１００万人以上が離職するとみられる。

鹿島は人手不足対策の一つの切り口として多能工化を進める方針。多能工化により現場の生産性向上を実現し、協力会社にも波及させていく。その結果、新たな建設生産システム構築も可能とみる。

内装工事は、すでにグループ会社と共同で「鹿島フィット」を設立。耐火被覆と軽量気泡コンクリート□□□□□の技能者の雇用や育成に着手した。内装工事の多能工化も目指す。

(日刊工業新聞2017/5/24)